

A-IV-5

木沢記念病院・中部療護センターで使用している 意思疎通グレーディング

木沢記念病院・中部療護センター

○篠田 淳、奥村 歩、伊藤 毅、竹中俊介

意識障害は「覚醒の障害」と「外部環境認知の障害」の二つの要素で構成される。遷延性意識障害患者は程度の差はあるも「覚醒の障害」というより「外部環境認知の障害」がその主体である。遷延性意識障害において純粋に意識レベルを評価することは、患者の「外部環境認知の障害」の評価をすることと考える。中部療護センターでは「外部環境認知」の評価は、即ち「意思疎通の程度」の評価と考え以下のような「中部療護センター意思疎通グレーディング」を考案した。本スケールは極めて単純で使用し易いものであり、遷延性意識障害評価の際の一助となれば幸いである。

LEVEL I：わずかでも言語による意思疎通を図ることができる。

LEVEL II：言語による意思疎通を図ることはできないが、外的刺激に対し、その刺激の方向への反応がみられる。刺激方向への反応とは追視、合目的動作、表情の変化を指し、単純な開閉眼、四肢・体幹の逃避的屈曲、咳き込み、呼吸の変化、頭部の不随意運動、筋収縮、反射的な動きはこれに含まない。

LEVEL III：外的刺激に対し刺激方向への反応がみられない。